

相談支援連絡会からの報告

- 相談支援連絡会での課題について、以下のとおり報告する。
 - 相談支援の課題について

相談支援の課題について

目次

- (Ⅰ) 相談支援の課題 ……P4
- (Ⅱ) サービス量の問題 ……P6
- (Ⅲ) サービス体系の課題 ……P7
- (Ⅳ) 関係機関との連携の課題 ……P8
- (Ⅴ) 認知度の問題 ……P9
- (Ⅵ) 要望 ……P10
- (Ⅶ) その他 ……P11

項目	課題
<div data-bbox="215 264 741 341" style="border: 1px solid black; background-color: #e0f2f1; padding: 5px;">(I)相談支援の課題</div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ サービス調整をする為に、各事業所へ連絡をするだけに終わっていないか、家族の意向もそうであるが、本人の意思確認も行った上での提供を行っているか(自分の意思を表現することができない利用者も多い)などの疑問。 ○ 単身生活者において、生活保護費や年金などを浪費してしまうケースがあり、他者の支援を受けながら金銭や書類などの管理をしていく必要性をどう理解してもらえるかが課題。 ○ ピアカウンセリング・自立生活プログラム(委託相談事業の予算では独自に集中講座を企画することが困難)の問題。 ○ 区のケースワーカーとの役割分担又は協働する部分の棲み分け。 ○ 受給者証・利用証を支給してからの相談ではなく、その前に一緒に話を聞くことが必要。 ○ 施設入所支援についても申請を出してしまう前に話を聞くことが必要。 ○ 日常業務を抜けて個人的な研修参加等による研鑽だけでは、その研修の必要度・有効性等判断しきれず限界があり、現任研修だけでは不十分に感じるが、現任研修のように参加が義務付けられるようなものが必要。また、実行性のあるステップアップしていける体系的な研修プログラムが必要。

項目	課題
<p data-bbox="215 268 741 341">(I)相談支援の課題</p>	<ul data-bbox="824 300 2011 746" style="list-style-type: none">○ 本当に最適だったのかの答えはいつでるのか。○ 本人へのサービス利用に対し家族が消極的な場合のアプローチ。○ 介護保険のケアマネ的役割を担いきれていない。○ 要相談者にとって、必要な相談支援にたどり着けているのか、適切なサービスを提供できているのか疑問。○ 精神障がい者への支援の立ち遅れを感じる。支援の方策の検討も必要。

項目	課題
<p data-bbox="215 268 741 341">(Ⅱ) サービス量の問題</p>	<ul style="list-style-type: none"><li data-bbox="824 300 1973 427">○ 在宅生活を支援していくにあたり、短期入所やガイドヘルプなど家族のレスパイトを主とした相談を受けることが多いが、短期入所などは提供する事業所が限られているので、調整が困難。<li data-bbox="824 480 1951 517">○ 資源不足の為、利用者のニーズに対応しきれず、次に繋げられない。<li data-bbox="824 569 1823 606">○ 地域活動支援センターの受け入れ状況が把握できていない。<li data-bbox="824 659 1697 695">○ 精神障がいの方の地域移行に対し居場所が少ない。<li data-bbox="824 748 1989 831">○ 相談を受けながら、同時に心理的支援、行動的支援をする場が少ない。親と離して訓練できる通過的訓練の場が必要。<li data-bbox="824 884 1973 967">○ 行動障害(知的に重い人も軽い人も)と向き合える場が少ない。短期的な利用者の受け入れが困難。

項目	課題
<p data-bbox="215 268 741 341">(Ⅲ) サービス体系の課題</p>	<ul data-bbox="824 300 1980 564" style="list-style-type: none">○ 入院時の介助の手だて, 胃ろう, 人工呼吸器の吸引行為, インシュリン注射など, 重度訪問介護事業を積極的に提案できない。○ 単身者への短期入所支給。○ 施設入所者への移動支援支給。

項目	課題
<p data-bbox="235 284 772 327">(IV)関係機関との連携の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"><li data-bbox="824 300 1675 343">○ 区や病院からの利用者の情報(アセスメント)不足。<li data-bbox="824 391 1995 518">○ 大人の支援を通して、幼児期・学齢期のかかわりの大切さを痛感。特に学齢期の支援として、学校との連携が不可欠。特別支援学校は理解が進んでいるが、特別支援学級の問題は大きい。<li data-bbox="824 566 1982 654">○ 教育や、保健、労働等、他の相談機関とうまく連携して(ニーズの切り分けをして)対応できたという事例を共有を行いたい。

項目	課題
<p data-bbox="215 264 741 341">(V)認知度の問題</p>	<ul style="list-style-type: none"><li data-bbox="819 300 1980 427">○ 事業所の認知度が低い為、問題を抱えていてもそれを相談できずにいるというケースを把握していない現状であり、関係機関との連携による情報の収集と、相談者へのアプローチが自分の大きな課題。 <li data-bbox="819 478 1980 606">○ ケアマネジメントをお願い出来る所や相談できる場所がないという話があり、相談支援の認知度が低いと感じ、相談支援について内容的なものを福祉関係者に周知しなければならない。

項目	課題
<p data-bbox="215 264 741 341">(VI)要望</p>	<ul data-bbox="819 300 1998 517" style="list-style-type: none"><li data-bbox="819 300 1998 384">○ 昨年度に新潟市の相談支援体制を議論したが、22年度も継続して議論を行いたい。<li data-bbox="819 437 1998 517">○ 昨年度は先進県の自立支援協議会、相談支援体制について、先進地を視察してきたが、今年度も継続して他の先進県の視察を行いたい。

項目	課題
<p data-bbox="215 268 741 341">(VII) その他</p>	<ul data-bbox="824 300 1973 831" style="list-style-type: none">○ 精神科退院後の再入院の難しさ。○ 公共交通機関の整備, 福祉有償運送に頼らない移動手段。○ 権利擁護(通帳管理, 投票権, 無権代理)の問題。○ 福祉的就労以外の一般就労(共同連, 共作連等団体の提案)の問題。○ 就学問題(養護学校義務制の元, 普通学校に行きたいと願う選択肢の保障, 卒業後の進路)。○ 精神科Drの往診ができないか。

相談支援連絡会 名簿

(敬称略・順不同)

	関係機関名	氏名	備考
1	社会福祉法人 とよさか福祉会 クローバープロジェクトひろば	鷺尾 絵津子	
2	社会福祉法人 新潟太陽福祉会 新潟東自閉症・知的障害支援センターおれんじぼーと	東海林 織枝	
3	社会福祉法人 新潟市社会福祉協議会 障がい者生活支援センター	川本間 眞貴子 碧	
4	社会福祉法人 中蒲原福祉会 障害者支援センターわかば	松田 邦彦 高井 淳史	
5	社会福祉法人 中東福祉会 自立支援センター まんにち	清水 佳愛 大澤 こずえ	
6	社会福祉法人 白蓮福祉会 相談支援センターあると	又地 千鶴 佐藤 里香	
7	特定非営利活動法人 自立生活センター新潟 すてっぷグループ	遁所 直樹	
8	社会福祉法人 新潟みずほ福祉会 相談支援センター わあ〜らく	海老 郁夫	
9	社会福祉法人 新潟しなの福祉会 地域生活支援センター ふらっと	坂井 省英	
10	社会福祉法人 更生慈仁会 障がい児・者相談支援センター	本田 ゆり子	
11	社会福祉法人 更生慈仁会 新潟市発達障がい支援センターJOIN (ジョイ ン)	渡辺 満	

	所属	氏名	備考
1	障がい福祉課介護給付係 係長	小柳 健道	
2	障がい福祉課介護給付係 副主査	井浦 雄介	